

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・写真 GT
山行番号	NO. 1913	
日時	2021年4月1日(木) 無風快晴高温	
山域	頸城山塊・高松山(1725m)	
コース	笹倉温泉発5:23ーアマナ平7:46ー焼山川8:22ー尾根取り付きー最高到達点1560mー滑降ー焼山川ーアマナ平ー笹倉温泉12:46ー移動ー妙高高原	
単純標高差	上り 笹倉温泉約480m～最高到達点約1560m＝約1080m 下り 同上	
藪漕度	上り・下り なし	
難易度	非常に困難 困難 レやや困難 <u>普通</u> やや易しい 易しい	
上りは地獄、下りは極楽のハズが・・・		
参加者	後藤、加藤＝2名	

1日、長駆、糸魚川から笹倉温泉に向かう。笹倉温泉は、標高約480mだが、積雪はまだ1m以上ある。桜は咲いていない。笹倉温泉は、2019年3月以来。その時は、大雪で途中の集落で帰った。



キクザキイチゲ



笹倉温泉上

久しぶりに笹倉温泉に入りたかったが、コロナで休業。今週から週末だけ営業とのこと。ただ前回、早朝トイレを借りた。駐車場で開業の支度をしている、「部長さん」に頼んだ。部長は、快く承諾してくれた。旅先で温かくして頂くと有難い。感謝でした。

笹倉温泉は、駐車場脇に温泉がコンコンと出ている。温泉に入れないので、ビニール袋に温泉を入れて、即席の「足湯」を楽しんだ。足が温まるだけで気持ちが良い。これも有難かった。

駐車場にいたら、二名の方が山から降りて来た。聞けば、我々が明日行く、高松山を上り滑って来たという。ただ、コースは、我々が希望している、北尾根～頂上～ノ倉川でなく、尾根往復と聞いた。

頂上は上らなかったという。いや、上らなかったでなく「上れなかった」ようだ。何故の質問に

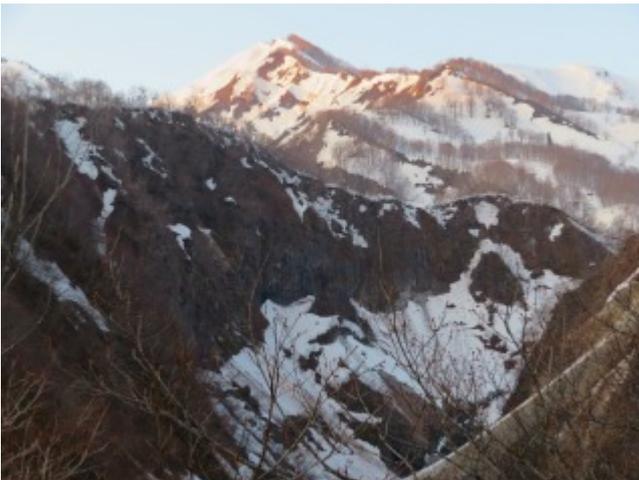
「雪壁・雪庇（せっぴ）」といった。雪庇とは、雪の庇（ひさし）で風下に形成される。大きいと崩さないと突破出来ない。「ふ～ん、厳冬期なら、いざ知らず、この時期でもそんな状態か」と思った。何となく素人っぽく、一人の方は、障害を持っているようだった。そんなことで、私は少し見くびった。しかし、我々も結果は、忸怩たるものだった。



笹倉温泉



手製足湯（笑い）



左・焼山、右・高松山



中央奥が高松山



2日、ようやく明け始めた5：23出発。天気は良く風はなく温かい。雪がカチカチなので、スキーは背負って行く。前はシルで上ったので、取り付きの林道で苦労した。急な林道をこなす

と、ようやくなだらかになる。正面に高松山が大きい。雪がベッタリ付いている。とても、1700mの山と思えない。

林道が終わると、アマナ平と呼ばれる平坦地に出る。ここでアクシデント。相方のアイゼンのピンが折れて、前後に分解しまった。アイゼンがないと上れない。カメラ落下防止のナイロン製の太い紐で応急処置。案外、上手く固定出来た。

.....壊れたのは、チタン製のアイゼンで、山岳スキー靴専用のものだった。壊れた箇所は、アイゼンの前と後ろを繋ぐピンが折れていた。ピンが折れると、前後を繋ぐものが無くなり分解する。4ミリくらいのピン一本で、前後が繋がっているのは、いかにも脆弱。壊れた場所が本格的な上りでなく幸いだった。

仮に氷化した急斜面だったら、滑落する恐れがあった。不幸中の幸いだった。応急処置は、3ミリのナイロンで留めたら案外、上手くいった。このアイゼンの設計は、アイゼンを靴の大きさに簡単に合わせられるようになっている。

ピンのところがバネで上げれば、調整は簡単に出来る。ただ、ピンは細くそこに全荷重が掛かる。長年、使っているとピンに疲労が溜まる。



アジャスト・ピンが折れた



修理済

我々の登山靴は、冬靴・春靴・夏靴（劔岳など、真夏でもアイゼンを使う場合がある）・ハイキング靴と使い分けている。アイゼンもその靴に合わせたアイゼンが数台ある。だから、アイゼンの調整は必要ない。調整はピンでなくネジでしっかり固定したアイゼンが望ましい。

山中でアイゼンのトラブルは、下手をすると遭難になりかねない。帰静し、さっそく修理に掛かった。ピンのバネを除去し、ピンの代わりに、ジャンボ・エンチョーでステンレス製の5ミリの雄・雌のネジを購入した。

雌ネジは、座付きで緩みにくい仕様だ。結局、時間は30分、経費は100円程度。今度は絶対、バレルことはない。むしろ、何処かが強くなると、弱い部分に負担が掛かるのが心配くらい。そんなことで、当分このアイゼンのトラブルは回避できそう。ただ、次回から帰着時・出発時、しっかり点検することが大事なことでしょう・・・・・・・・。

焼山川を渡る。水流は出ていない。標高は約1000m。笹倉温泉から500m上った。頂上まで、まだ700m以上ある。夏でも2時間以上掛かる。3時間みなければならぬだろう。しかも、物凄い急登だ。

急登に入る。荷物が重く苦しい。スキー登山の場合は、普通の登山に比べ、10kgほど多い。スキー板・靴・シール・スキーアイゼンなどだ。スキー滑降はサイコーに気持ち良いが、登行は最悪で地獄だ。苦しい登行が続く。兎に角、急な尾根だった。天気は無風快晴高温。絶好の登山日和



左が高松山

だが、いかにも暑すぎる。標高は1200mくらい。大分、高度を上げて来た。高松山は、北面故、真っ白だった。目を凝らせば、焼山台地に先ほどの3名見えた。下部で我々より先を歩いていたが、現在は、こちらのほうが高度がある。それだけ尾根が急ということだろう。盟主・火打山、焼山が大きい。

.....初めてこの山塊を訪れたのは、1977年4月28日～5月2日で44年前。妙高～火打～雨飾を単独でやった。しかも、私はその前月の3月20日結婚したばかりだった。考えれば、随分、無茶をしたものだ。今では、とても考えられない。

その時、前後して歩いていた3人組は、雨飾山で荒菅沢をスキーで下って行った。アツという間の出来事だった。私は黒沢尾根をタラタラ下った。夕方、やっと山田旅館着。スキー組は、既に温泉を済ませ、盛り上がりビアをやっていた。

実に悔しかった。スキーを上手くならなきゃと感じた。当時、山田旅館は、一泊二食で4000円だった。44年前ならそのくらいだろうか。翌日は大雨で、逃げるように帰静した.....

雪面にちょっと変わった足跡があった。余り見ない形だった。帰って調べたら「ライチョウ」らし



高松山・北尾根

い。頸城山塊に「ライチョウ」がいることは知らなかった。過去の記録に記述があった。火打山も多い記録がある。「ライチョウ」の足跡を観察しながら上る。暑い。汗が吹き出る。余りの暑さに、

「股引」を脱いだ。脱ぐといっても簡単にいかない。面倒なスキー靴を脱いで、片足ずつズボンを下して脱ぐ。4月の好天時は、朝と昼の寒暖が大きい。朝は相当冷えるから、やっぱり股引は必要。

ただ、昼はモーレツに暑い。登山は出来るだけ汗を掻かない工夫が必要だが、こればかりは、どうにもならない。脱いだ股引は汗でグジャグジャだった。これで、また荷物が増える。

頂上に目を凝らしたら、何と2名先行していた。下山後、笹倉温泉で交流して分かったが、地元のY沢・K藤さんだった。聞けば我々より早い4時半に出たという。しかし、若いうえに地元の山には精通している。速いのは、当たり前といえば、当たり前かもしれない。彼らのネットを観たら毎週、近辺を滑っていた。

山に昨日のと思われる、スキー跡があった。昨日、会った方だろう。急な尾根なので、雪が悪いと難しそうだ。尾根の向きが北から東に変わる上がスキーの滑降ポイント。標高は、ちょうど1500mだった。



ポイントの上が標高1560m。窪地があり、夏は池塘（ちとう）が出来るような地形だった。窪地から頂上まで約165m。細く急な雪稜が続いていた。見上げると頂上まで3段に見えた。この重い荷物で上るのは難儀な感じだった。しかも、何故か相方が、ピッケルを持参しなかった。

昨年末、八方尾根を上った時、ピッケルは使ったが、山によっては、ストックで上れると自負していた。私もそれを聞いていたので特に注意はしなかった。しかし、頭上の急峻な雪稜は、やっぱりピッケルがないと難しく怖い。

私は例えスキーで反対側の一ノ倉川を滑れなくても、荷物をここに置いて空身でピークをピストンも考えた。山に来た以上、ピークにこだわるのは当たり前だ。そのこだわりが無くなったら山登りは止めた方がよい。簡単に「敵前逃亡」はいけない。

だが、最近、私は加齢と共に「山が怖く」感じることもある。無論、ピッケルがない相方を置いて、単独で上る勇気はとてなかつた。昔から、臆病だったが最近輪をかけている。結局、ここから滑降することにした。無理をすることはない。最近の山では、昨年末の唐松、2月の西天狗、に続いて3度目だった。滑降は、雪面が荒れている。やや硬い。急で、イマイチだった。ただ、ボーゲンが上手い相方はスイスイだった。

無木立・疎林を抜けると簡単に焼山川着。アマナ平大休憩。好天で温かく、有り難い。ここから





笹倉温泉



地元のY沢・K藤さん

林道を滑って笹倉温泉着。駐車場まで滑り込めるのはサイコーだ。昼食を食べていると、前述の2名がやって来た。話好きで30分話してしまった。今度、富士山を頂上から滑りたいという。彼なら全く問題ないでしょう。友情の証に、ビアを一本進呈。(一人は運転なので) 喜ばれた。

追記

ここを知人の女子が(男子・1名、女子・2名)2月に上った。驚異だった。

<https://bigislandyamaguide.com/>

